

☒ 話すこと ☐ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

AIによる即時フィードバックを活用した自己修正型の学習の促進と教師による指導の焦点化

実証概要

<校数> 3校(中等教育学校:1校、高等学校:2校) <人数> 1,001名(中等教育学校:138名、高等学校:863名)
<学年> 中等教育学校:第4、5学年、高等学校:第1、2、3学年 <アプリ> ELSA School(駿台教育センター株式会社)
<AI機能について> 1. 発音の正確性を分析・スコア化 2. 音読の個別指導 3. AI英会話(AIとのロールプレイ会話)
4. スピーチ分析サービス「スピーチアナライザー」により、生徒のスピーキング力をCEFRに基づいて評価、分析、改善点をフィードバック

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●スピーチアナライザーによる音読練習支援及び発表練習支援

教科書の各レッスンの新出語句の発音練習、各セクションの音読練習だけでなく、パフォーマンステストや課題研究発表、スピーチコンテスト等に向けた個人練習でも活用した。生徒は自分の話した英語を可視化して振り返ることで、発音や強勢、流暢さの課題を自ら認識し、改善点を明確にしたうえで練習を重ねることができた。その結果、教師による個別指導の時間を補完しつつ、生徒一人一人に応じた反復練習が可能となり、個別最適な学びに近い効果が得られた。従来時間をかけていた基本的な発音練習の時間が削減されることで、教師は内容や表現といった本質的な指導に集中できるようになった。

●発音のフィードバックによるモチベーションの向上

英語コミュニケーションの授業では、「話すこと」の能力を高めるために、教科書の各章末のアクティビティを行い、その際にAIから評価とフィードバックをもらいながら改善させた。論理・表現の授業では、短いスピーチの練習をする際にAIを活用しながら改善させた。即時フィードバックで評価が得られるため、モチベーション向上につながった。

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

・モデル校3校で生徒の英語力は上昇・ELSA Schoolの使用前後のテストでは、CEFRのA1レベルが減り、A2・B1レベルが増えた(3校すべて)
・下位層の生徒には大きな変化が見られなかった(1校)。

②児童生徒の関心・意欲の変化

アンケートの結果
・AIの活用により、自分の発話に関する課題が可視化され、モチベーションにつながった
・発話機会の増加が自信につながった
・75%の生徒がAIアプリ学習に肯定的な意見を示した(1校)。
・好意的に捉えているのは上位層の生徒と予想される。上位層にとっては個別最適な学習ツールになると考えられる。

③教師の指導の変化

アンケートの結果
・AIの活用により、統一の評価基準から数値で判定されるため、評価に反映しやすくなった。
・発話の際、基本的な発音や流暢さに関する個別指導にかけていた時間がAIの活用により削減され、教師は内容や表現といった本質的な指導に集中できるようになった。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●協議会を重ねることで、AIの役割と教師の役割を認識

モデル校での授業研究及び協議を重ね、AIの活用方法が洗練され、各校の生徒に応じた取組がなされるようになった。本県の英語発信力育成事業と関連させて事業を進めたことから、生徒の発信力向上につながる活用方法や、教師の指導方法等に重点を置いた情報交換ができた。有識者による指導助言を踏まえて、各校でスキルアップを図った結果、発音や流暢さ等の形式面でAIを使用し、内容面では教師が指導すべきであるとわかった。本県で実施している研修において、全県の英語教員に対して、モデル校の成果と課題を共有した。他の教員の受け止め等の把握は今後の課題である。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●AIの活用による生徒の英語力向上及び事例の普及

モデル校のAI英語活用リーダーの工夫により、本県の英語教育に参考となる事例が得られた。AIの活用により、生徒は自分の発話を即座に振り返り、発音や表現の課題を把握して修正する過程を繰り返すことが可能となり、主体的に学習に取り組む態度の育成につながった。特に、AIの活用には、教師の役割が重要であり、活動の目的や場面に応じた指導の工夫を行うことで、生徒の気づきや改善を促し、学習の質の向上につながった。一斉指導では難しかった個に応じた学びの実現にもつながった。一方課題は、生徒の振り返りの質に差がみられることや、発音等の形式面に学習が偏りやすい点が挙げられる。今後は、振り返りの観点の明示や活動の目的の明確化に加え、公開授業等による実践の共有をとおして、AIと教師の役割を整理した指導の充実を図る必要がある。